

## 平成26年度JBCF 事業報告書

平成25年（2013年）9月20日群馬サイクルスポーツセンターにて、開催の第47回経済産業大臣旗ロードチャンピオンシップ大会の会場に於いて「2014年度Jプロツアーチーム登録」に関する発表を行い、11月16日には「連盟活動方針」を発表しました。

その内容は平成24年（2012年）の基本内容を踏襲し以下のようなものです。（抜粋）

### 1. メジャースポーツへの成長（魅せるレース、創るレースへ）

グローバルスタンダード&オリジナルも醸成

### 2. 広報強化、情報発進力の向上

メディアミックス・アプローチ・即応力

### 3. 本部機能の充実（事務局）

Web駆使・日々完結

### 1. メジャースポーツへの成長（魅せるレース、創るレースへ）

メジャースポーツへの成長としては海外からの有力選手のJPT加盟がますます加速するとともにその活躍が挙げられます。チーム右京のホセ・ビセンテ選手は2013年に引き続きルビーレッドジャージを獲得しました。

初開催で初戦でもある第1回宇都宮クリテリウムは3月23日栃木県宇都宮市の清原工業団地内の公道で実施されました。これは宇都宮ブリッツエンの運営会社であるサイクルスポーツマネジメント（株）との共催で企画運営されたもので、地域密着型チームとオーガナイザーとのコラボレーションのモデルとして注目されました。

魅せるレースとしてクリテリウム形式は最適なこともあり、観客動員も目標を遙かに上回る7,000人と大きな成功を収めました。

この年初開催となるのはこの開幕戦以外に9月28日の第1回南魚沼ロードレースそして最終戦の11月2日第1回大分ロード、11月3日第1回大分いこいの道クリテリウムです。

新潟県でのJツアー初開催となる南魚沼のコースは国体でも使用されたことのある12kmの公道を使用した周回コースで、おおよそ平坦ではありますが三国川（サガリガリ）ダムサイトの落差分の斜度がある登坂部分の観戦エリアでは多くの観客に声援を送って頂きました。

Jプロツアー最終第20、21戦の大会会場は九州大分市内で、ロードレースは大分トリニータの本拠地、大銀大分ドームを囲む一般公道を使用した4kmの周回コース、クリテリウムはJR大分駅前の公道1.1kmの周回コースとともに全面車両規制を実施してOITAサイクルフェス2014のメインイベントとして開催されました。

この大会は2日連続同一地域で開催されましたが、大会としてはそれぞれ別大会としての扱いであり、ポイントも大会別に付加集計されるということもありここでJプロツアアの年間総合順位が決定することになります。

2014年の個人総合はチーム右京のホセ・ビセンテ（スペイン）と宇都宮ブリッツエンの増田成幸の接戦で、最終戦の順位如何により逆転の可能性もある展開でしたが結果はチーム総合は宇都宮ブリッツエン、個人総合ルビーレッドジャージはホセ・ビセンテ選手が獲得し終了しました。

2014年JBCF ROAD SERIESは、Jプロツアア全21戦、Jエリートツアア全33戦、Jフェミニンツアア全32戦、Jユースツアアは全6戦を全て開催し昨年のような中止の大会はありませんでした。

ジュニア、ユースの実戦強化の目的で2012年より導入されたJユースツアアですが2014年の世界選手権の個人ジュニア、ロードで、実業団加盟の男女選手2名がトップグループで大健闘しました。坂口聖香 13位(93名出走)、石上優大 17位(187名出走)

また、TRACK SERIES全3戦のうち第45回東日本トラック（8月10日福島県泉崎国際サイクルスタジアム）は東日本大震災によって施設、走路が損壊していたが漸く改修され、その再開と被災地支援も兼ねて開催しました。大会当日は雨のため一部競技内容を変更して実施しました。

このような自然災害による大会の変更、中止は、安全管理の上からも主催者が関係団体と協議し、特段の配慮をもって決定すべき事項であり、連盟登録者の皆様にはご理解を頂きたいと思います。

## 2. 広報強化、情報発進力の向上

2008年に発刊したJBCF公式ガイドブックは2014年も制作し、各開催会場や全国有力サイクルプロショップなどへ無料配布してJBCFの活動、登録チームや有力選手の紹介などを広範囲に周知しました。特にシリーズ初戦の宇都宮クリテには予想を上回る一般観客が来場し、自転車競技のルールやチーム名など知らない方々には大変好評で、準備した2,000部は早々と無くなるという嬉しい悲鳴を上げました。

2014年8月及び12月にスポーツ専用チャンネルJ SPORTS（BS）でJプロツアア前半戦及び後半戦を各1時間番組で放送しました。またこの番組は再放送を含め都合全8回を放送しました。

2014/ 8/29 JS 4 22:00～ (60分番組) Cycle\*2014 Jプロツアア 前半戦総集編

2014/ 9/07 JS 2 10:55～ (60分番組) ※再放送

2014/ 9/11 JS 3 24:30～ (60分番組) ※再放送  
2014/ 9/14 JS 1 24:30～ (60分番組) ※再放送  
2014/12/22 JS 3 22:00～ (60分番組) Cycle\*2014 Jプロツアー 後半戦総集編  
2014/12/27 JS 1 08:00～ (60分番組) ※再放送  
2015/01/07 JS 2 10:15～ (60分番組) ※再放送  
2015/01/08 JS 4 24:55～ (60分番組) ※再放送

Y o u T u b eによる動画の無料配信は昨年同様に継続実施し、W e bへのアップ時間も大会終了後2, 3日に定着し好評を得ました。

また、同じく2014年もインターネット(U S t r e a m)を利用したレースの実況生放送を行いました。

前年の実績を踏まえ下記会場にて配信しました。

- (3/23) 第1回 J B C F 宇都宮クリテリウム
- (4/19) 第3回 J B C F チームタイムトライアル 南紀白浜
- (4/20) 第4回 J B C F 白浜クリテリウム
- (4/26) 第6回 J B C F 群馬C S Cロードd a y 1
- (6/21・22) 第48回 J B C F 西日本ロードクラシック 広島大会
- (7/ 6) 第48回 J B C F 東日本ロードクラシック 修善寺大会
- (8/31) 第6回 J B C F みやだクリテリウム
- (9/ 7) 第4回 J B C F タイムトライアルチャンピオンシップ
- (9/21) 第48回 J B C F 経済産業大臣旗ロードチャンピオンシップ

J B C F ロードシリーズ2014年間アワードは、例年通りサイクルモード幕張メッセ(11/8)のメインステージで多くの観客を前に実施しました。

同日隣接する海浜幕張公園にて開催されたJエリートツアー最終第33戦は、H o n d a 栃木と竹芝レーシングの一騎打ちとなり、次年度Jプロツアーへの昇格を目指して熾烈な戦いになりました。結果エリートツアーチャンピオンのH o n d a 栃木の川田優作が優勝し、竹芝レーシングに195ポイントの僅差で競り勝ち、チーム優勝はH o n d a 栃木が勝ち取りました。

大会終了後、入賞選手、チームは幕張メッセ会場へそのまま移動し年間表彰式へ出席してもらいました。

Jプロツアー、Jエリートツアー、Jフェミニンツアー、Jユースツアーの年間入賞者及びチームに斧 理事長から表彰状とチャンピオンジャージ、賞金が手渡されました。

翌(11/9)幕張メッセにて開催の第6回サイクルモード併催タイムトライアル選手権への選手派遣と運営に協力しました。

JBCF広報ブースは幕張メッセ（11/7～11/9）に出展し、YouTubeで放送した2014年JPT全レースの動画を大型モニターで流すなど広報活動に努めました。

### 3. 本部機能の充実

従来から運用しているJBCF公式サイトと大会エントリーからリザルト・ランキングまでの統合システムは、毎年のように増加する大会数や登録チームの利便性に合致し本部機能の中核を占めるポジションを確立して参りました。

特に各大会のリザルトはその大会終了後同日にアップし、ランキング、大会レポートも翌日には更新されるなど情報発信の迅速性は格段に向上して参りました。

海外レースやUCIレースへの参戦が各チームとも増えるとともに必須となる、JCF公認ライセンスのチームアテンダント講習会を大阪、東京で開催し、写真入り修了証（IDカード）を連盟独自に発行するなどの活動を開始しました。同時にアンチドーピング講習会を併催するなど選手の健康安全管理の重要性も認識してもらうことを徹底しました。

競技役員には、将来のUCIレースの開催運営を見据えて、若手スタッフの育成、ブラッシュアップ講習会への参加を要請し、本部機能の強化、充実に努めました。

### 5. 数字による実績

2014年度末のJBCF登録選手は2,484人（前年比100.8%）、284チーム（前年比100.8%）となりました。